



南丘小だより

平成27年11月16日(月)

発行責任者

北九州市立南丘小学校

校長 金子 博光

心身ともに健全で、一人一人が生き生きと輝く子どもの育成

徳 やさしく 知 かしこく 体 元気よく

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

平成27年4月21日(火)に、6年生児童を対象として、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を(「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」)を実施しました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

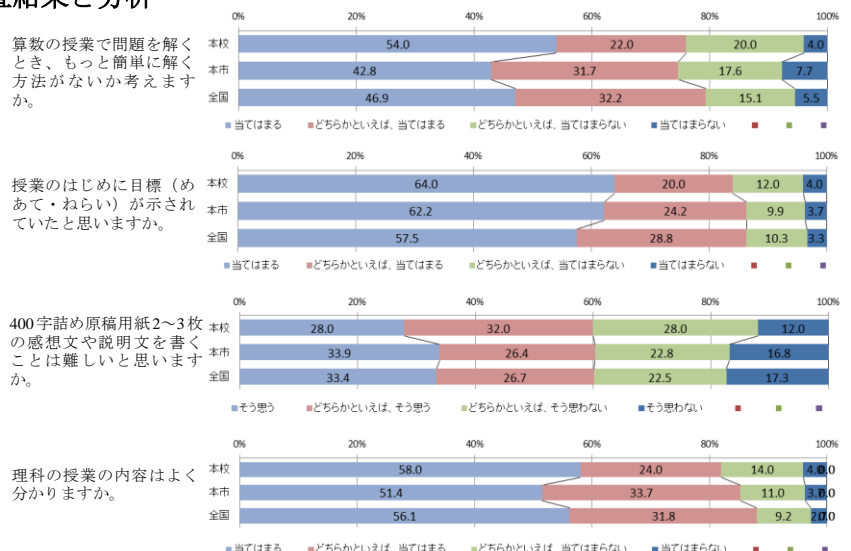
カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読みは全国平均を上回っているが、漢字を書くことに関しては、正答率が低く、無回答率が高い。書き取りをさらに習慣化する必要がある。 文を構成する主語と述語との照応関係を捉えることは、比較的できているが、表現の工夫を捉えたり必要な情報を読み取ったりするなどの読み取りの問題に課題がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて書くことについては比較的できていたが、読み取りに課題が見られる。そのため、読み取った後に文章化する問題では正答率が低かった。 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く問題の正答率が高かった。 目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える問題の正答率が低かった。
算数A	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 「数と計算」では、加法、減法、除法の計算の正答率は、4問中、いずれも全国平均を上回っていた。 二等辺三角形や円の性質から辺の長さや角の大きさを求める問題や、見取り図をもとに展開図の面の大きさを求めるなどの問題の正答率が特に低かった。 三角形や円の性質を利用した長さや角度を求める問題等、図形問題を苦手としている。
算数B	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質は理解できている。正答率が高かった。 正三角形の性質を利用して、辺の長さが等しくなる位置を求めるなど、図形の性質を利用して、長さや位置を求める問題を苦手としている。 「量と測定」や「数量関係」の問題を苦手としている。特に単位量あたりを用いたり、割合を使ったりする問題の正答率が低かった。
理科	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡など器具の名称や科学的な言葉についての認識が低く、正答率が低く、無回答率が高かった。 振り子の運動の規則性を時計の調整の仕方に適用できる問題の正答率が高かった。 実験結果を活用した問題の正答率が低かった。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・算数科の学習において、問題を解くときにもっと簡単に解く方法がないかを考えようとする意識は、全国より高い割合である。しかし、最後まで粘り強く考えることができる児童は少ない傾向にある。もっと簡単に解く方法を考える力を付けるためには、基礎基本の力とそれを活用する力の向上が必要である。

・「授業のはじめに目標が示されていたと思いますか。」の問いに、16%の児童が「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と答えている。引き続き、目標「めあて」を明確にした日々の授業に取り組みたい。

・書く学習活動を全ての教科に取り入れ、自分の考えや分析したことを表現できるようにしていきたい。

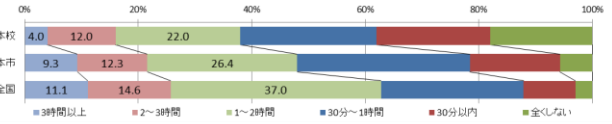


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

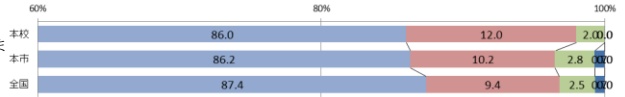
① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・「家で学校の宿題をしていますか。」の問いに対して、「している」「どちらかと言えばしている」と答えた児童が98%と本市と全国を上回っているが、1時間以上家庭学習をしている児童の割合は38%と本市と全国と比べてかなり低い。また、30分以内、全くしない児童は、38%とかなり多い。学校の授業の復習をしていない児童の割合も「あまりしていない」「していない」を合わせると66%と多い。引き続き、家庭学習チャレンジハンドブックを有効に活用したり、「南丘小学校家庭学習のすすめ」で学習時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導したりして、家庭学習の大切さを訴え、保護者の協力を得たい。

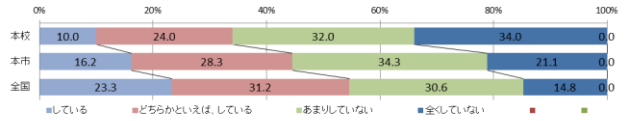
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）



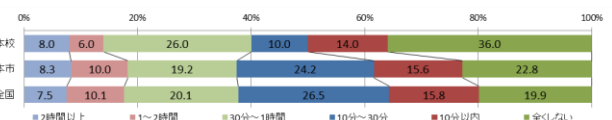
家で、学校の宿題をしていますか。



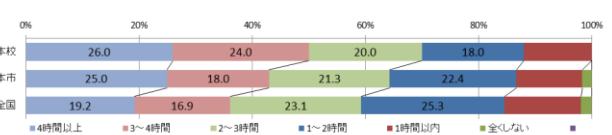
家で、学校の授業の復習をしていますか。



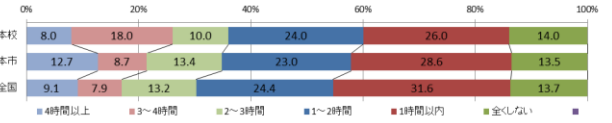
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）



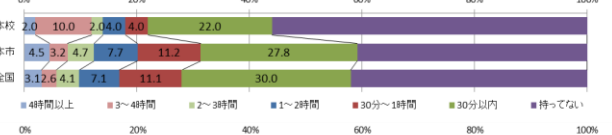
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見た、聞いたりしますか。（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。）



普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯ゲーム機、スマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。



普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間を除きます。）



将来の夢や目標を持っていますか。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・テレビやビデオ、DVDの視聴時間やゲームをする時間が、本市や全国に比べて長い。これが、家庭での学習時間の少なさや家庭での学習習慣が身に付いていない児童が多いことにつながっている。メディアとの正しい付き合い方について、PTA理事会や学級懇談会等で積極的に呼びかけるなど家庭の協力を得ながら、随時指導していく必要がある。
・将来の夢や目標をもっている児童は、本市と全国に比べてやや少ない。それぞれの夢や目標を実現させるために、日々の学習活動や学校行事など、具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎学力向上に関する職員会議の定期的な実施に努める。
 - ・全職員で学力の実態の確認・分析をする。
 - ・職員研修において学力調査の過去問題を解く時間を設ける。
- ◎学力向上のための特設時間を設置する。
 - ・朝自習での漢字練習、計算練習を充実させる。
 - ・月曜日の朝の時間帯に、全校一斉読書タイムを実施。
- ◎学級の実態に応じてアシストシートや活用力を高めるワークを利用する。
 - ・家庭学習にアシストシートを利用する。 ・個に応じた指導の充実。
- ◎「書く」ことに慣れる取組の実施。
 - ・教科や学習内容に応じて、自分の考えを書く場を位置付ける。
 - ・学習の終わりにまとめ（ふり返し）を書く時間を設ける。
 - ・ノート指導の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭に向けて家庭学習推進を啓発
 - ・家庭学習推進のための家庭向けパンフレット「南丘小学校 家庭学習のすすめ」をもとに啓発を行う。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭と連携して進める。
 - ・家庭学習マイスター賞への参加呼びかけを行う。
 - ・長期休業日中の宿題に学力調査の過去問題やアシストシートを活用する。
- ◎全国学力・学習状況調査の課題と取組状況について保護者へ周知
 - ・学校だより、学校ホームページで全国学力・学習状況調査の概要について周知する。

この調査結果をもとに、お子様のご家庭での学習習慣や生活習慣を見直していただくと幸いです。今後も、子ども一人一人に確かな学力の定着を図るため、日々の教育活動の充実に専念してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。